

2 防災教育の充実

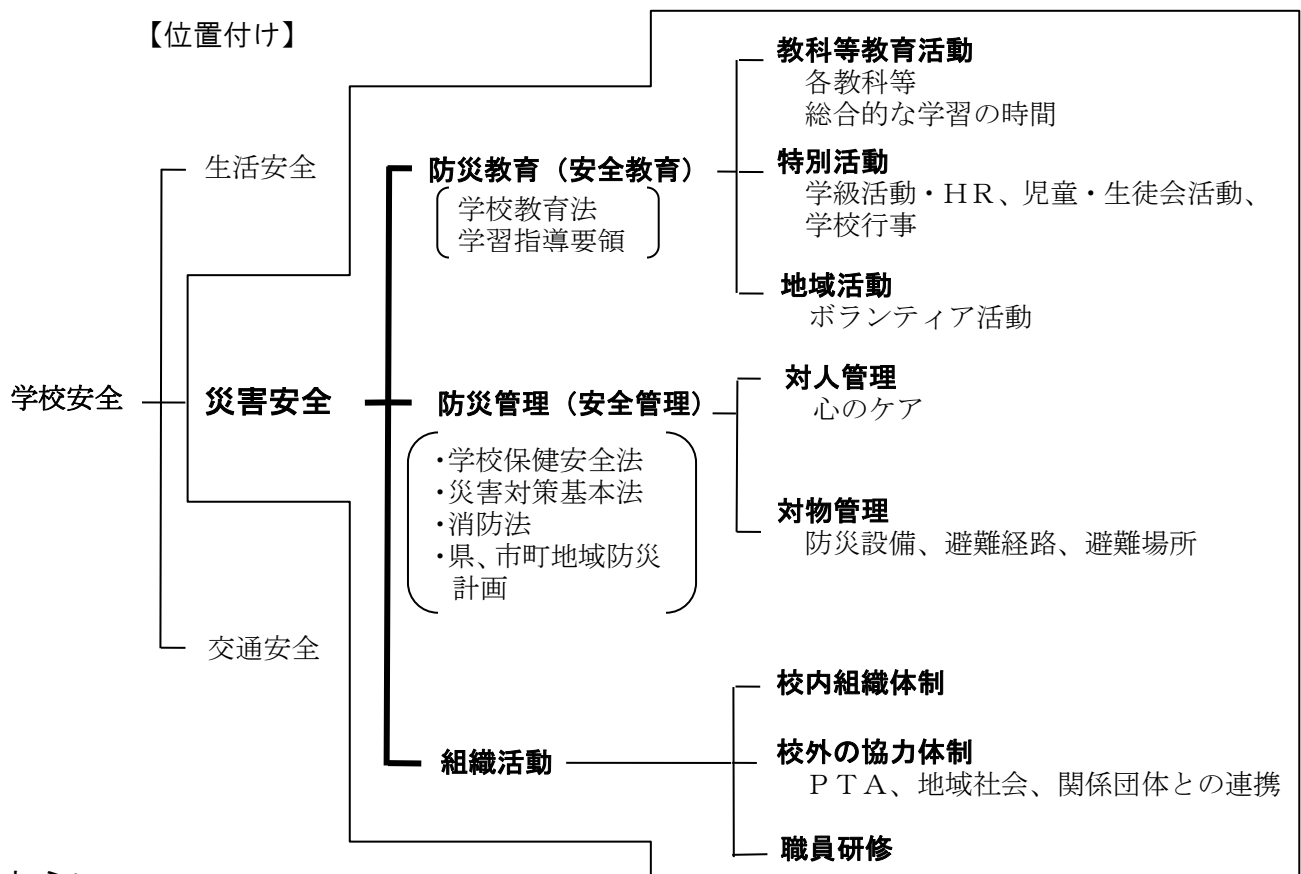
(1) 防災教育の位置付けとねらい

防災教育は、究極的には命を守ることを学ぶことであるが、そのためには、災害発生 の理屈を知ること、社会と地域の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして、それを実践に移すことが必要となる。

文部科学省では、学校における防災教育のねらいを、一つ目は「災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする」、二つ目は「災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする」、三つ目は「自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする」としている。※

特に、滋賀県においては、琵琶湖西岸断層帯による地震や東南海・南海地震等の発生の可能性がきわめて高いことに留意する必要がある。

学校における災害安全は、児童生徒の危険予測・回避能力の育成をめざす「防災教育（安全教育）」と児童生徒の安全確保に向けた体制の充実をめざす「防災管理（安全管理）」、これらを推進する体制を整備する「組織活動」の3つの要素がある。



ねらい

- ① 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断のもとに、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ② 災害発生時および事後、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ③ 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

※【文部科学省：防災教育参考資料『『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開』（平成10年3月）】

(2) 防災教育の重点

学校の防災教育は、児童生徒の発達段階や学校の実情を考慮して計画を作成し、指導に当たるとともに、「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議の中間まとめ」に示されている「自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育」と「支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める防災教育」が重要である。

① 幼稚園

周囲の安全に関心を向けながら、幼児が自ら安全な行動をとることができるよう、発達の実情に応じて指導し、災害時には、教職員や保護者の指示に従い行動できるようにするとともに、火災など危険な状態を発見したときには、教職員や保護者など近くの大人に速やかに伝えることができるようにする。

② 小学校

ア 低学年では、災害が発生したときに、ひき起こる危険を感じて教職員や保護者などの指示に従うなどして適切な行動とり、安全確保ができるようにする。

イ 中学年では、災害のときに起こる様々な危険について知り、自ら危険を回避する行動ができるようにする。また、日頃から地域との関わりを持つことにより、災害発生時に、家族や友だち、地域の人たちと協力して危険を回避できるようにする。

ウ 高学年では、地域の災害の特性や防災体制について理解し、自らの危険を回避し、家族や友だち、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようにする

③ 中学校

小学校での理解をさらに深め、安全で安心な社会づくりの大切さを認識し、地域や災害時の助け合いの重要性を学び、防災活動や応急手当の技能を身に付けて防災ボランティア等の支援活動に対する理解を深める。

④ 高等学校

災害の歴史や自然災害発生のメカニズムについて知るとともに防災体制についての理解を深め、災害の備えについて考えることができるようにする。また、自らの安全確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献しようとする態度や応急手当の技能等を身に付け、地域の防災活動や災害時のボランティア活動にも積極的に参加できるようにする。

⑤ 特別支援学校

幼稚園、小学校、中学校および高等学校における指導内容を参考にするとともに、児童等の障害の状態、発達段階、特性等および地域の実態等に応じて、学校で重点を設定する。

(注1) ①②ア「教員」を「教職員」、③④「応急処置」を「応急手当」、⑤「盲学校、聾学校および養護学校」を「特別支援学校」に修正して表記した。

【文部科学省：防災教育参考資料「『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開」(平成10年3月)】

(注2) 本手引きで記載する「学校」とは、学校教育法における学校を意味し、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等』のことをいう。また、「児童生徒」とは、『幼児、児童、生徒』を指す。

- i 自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育の推進
 - ・ 周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成
 - ・ 防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導充実
- ii 支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める防災教育の推進

「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議 中間とりまとめ」(平成23年9月)

(3) 発達段階別の防災教育の基本目標と指導内容

発達段階に応じた組織的な防災教育は、主として、学校教育において展開される。

特に、学校教育においては、生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するために、避難訓練だけではなく、学校の教育活動全体を通しての系統的な防災教育が必要である。

防災教育について、発達段階別の基本目標と学習指導要領等を踏まえた防災教育に関連する指導内容を整理すると以下のとおりである。

学校においては、効果的な防災教育の在り方を研究し、児童生徒および地域の実態に即した防災教育を、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の教育活動全体を通じて実践することが求められる。

ア 幼稚園

基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の安全委関心を向けながら、幼児が自ら安全な行動をとることができるようにする。 ・遊びの中で十分に体を動かすことを通して安全についての理解を深める。 ・支え合って生活するために、人とかかわることの楽しさや、人の役に立つ喜びを味わうことができるようにする。 ・発達の実状に応じて、基本的な対処の方法を知る。
関係領域・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。〔健康・内容(2)〕 〔健康・内容(10)〕 ・先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。〔人間関係・内容(1)〕 ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 〔環境・内容(5)〕 ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。〔言葉・内容(4)〕 ・生活の中で、様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。〔表現・内容(1)〕

イー1 小学校低学年(1・2年生)

基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭や通学路における安全確保行動に関心を持ち、災害発生時には、教職員や保護者等近くの大人の指示に従うなど適切な行動ができるようにする。 ・災害発生時には、<u>進んで家の手伝い</u>などをして、<u>家族の役に立つ</u>ことができるようにする。 ・日頃から家族や身の回りの大人と話をしたり、交流をしたりすることで、有事の際には、家族や大人と連絡を取り合うことができるようにする。 ・地域の災害に関心をもつことができるようにする。 ・琵琶湖西岸断層帯による地震、南海トラフ巨大地震等の大規模地震への備えが大切であることを知る。 	
指導内容	各教科	生活科 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と適切に接し安全に生活する。 ・公共物や公共施設を大切に、安全に気を付けて利用する。
	道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を付けた生活をしようとする実践意欲を育てる。 ・生命を大切にしようとする心情を育てる。 ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることで家族や身の回り人の役に立とうとする態度を育てる。
	特別活動	学級活動 <ul style="list-style-type: none"> ・防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解し、健康安全を意識した行動の仕方を身に付ける。 学校行事 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の非常時に自分の身を守ることなどについて、その意識を理解し、必要な行動の仕方などを身に付ける。 ・避難訓練など、安全や防災に関する行事を通して、安全に関心を持ち、積極的に取り組もうとする態度を養う。

イー2 小学校中学年（3・4年生）

基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の地形等に関心を持ち、災害時には教職員や保護者等近くの大人の指示に従うとともに、自らも安全な行動ができるようにする。 ・災害発生時には、家族や友達などみんなと助け合うことができるようにする。 ・地域の災害の種類が分かり、そのための防災体制が組織されていることを理解できるようにする。 ・琵琶湖西岸断層帯による地震、南海トラフ巨大地震等の大規模地震への備えが大切であることを理解できるようにする。 ・日頃から進んで家族や友達、周囲の人と関わり合うことで、有事の際には協力して助け合うことができるようにする。 	
	各教科	社会 <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害から地域の安全を守るための諸活動について考える。
	道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を支えている人々や高齢者を尊敬と感謝の気持ちをもって、接しようとする心情を育てる。 ・生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることを育てる。 ・郷土の文化と伝統を大切にしようとする態度を育てる。
	特別活動	学級活動 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の非常時に自分の身を守るなどについて、その意識を理解し、必要な行動の仕方などを身に付ける。 ・避難訓練など、安全や防災に関する行事を通して、安全に関心を持ち、積極的に取り組もうとする態度を養う。 学校行事 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の非常時に自分の身を守るなどについて、その意識を理解し、必要な行動の仕方などを身に付ける。 ・避難訓練など、安全や防災に関する行事を通して、安全に関心を持ち、積極的に取り組もうとする態度を養う。
指導内容	総合的な学習の時間	〈活動例〉 <ul style="list-style-type: none"> ・地域で過去に発生した災害等について調査する。

イー3 小学校高学年（5・6年生）

<p>基本目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や気象、自然環境について関心を持ち、災害発生時には自ら安全な行動ができるようにする。 ・災害発生時には、家族や友達、周囲の人々と助け合うことができるようにする。 ・地域の災害の特性や防災体制の仕組みについてのあらましが理解できるようにする。 ・琵琶湖西岸断層帯による地震、南海トラフ巨大地震等の大規模地震への備えについてのあらましが理解できるようにする。 ・日頃から家族や友達、地域の人たちと災害に関することで関わり合い、有事の際には周囲の人と協力して、人のために役立つ行動がとれるようにする。 	
<p>指導内容</p>	<p>各教科</p>	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土の自然と環境と国民の生活との関連について考える。 <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場面があることを理解する。 ・天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解する。 ・土地は火山の噴火や地震によって変化することを理解する。 <p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止について理解するとともに、簡単な手当ができるようにする。
	<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命はかけがえのないものであることを理解し、尊重しようとする態度を育てる。 ・働くことの意義を理解し、公共のために役に立とうとする実践意欲を育てる。 ・先人の努力を知り、国や郷土を愛する心情を育てる。
	<p>特別活動</p>	<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解し、健康安全を意識した行動の仕方を身に付ける。 ・情報を集め状況に応じてよりよく判断し行動できるようにする。 <p>児童会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組めるようにする。 <p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害等の非常時に自分の身を守ることなどについて、その意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付ける。 ・避難訓練など安全や防災に関する行事を通して、安全に関心を持ち、積極的に取り組もうとする態度を養う。
	<p>総合的な学習の時間</p>	<p>〈活動例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境について体験的な学習をする。 ・地域の災害の歴史を調査し防災対策について探究する。

ウ 中学校

<p>基本目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から災害に対する備えを行い、災害時には的確な判断により、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。 ・災害発生時には、的確に判断して対処するとともに、自他の安全を確保することができるようにする。 ・自然災害の発生メカニズム、地域の災害の特性を理解し、地域における防災体制整備について理解できるようにする。 ・応急手当の意義を理解し、心肺蘇生等の応急手当ができるようにする。 ・優しさや思いやりの心を持って生きることの大切さを理解させるとともに、進んで公共の福祉のために尽くそうとする態度を養う。 ・琵琶湖西岸断層帯による地震、南海トラフ巨大地震等の大規模地震の発生メカニズムや防災対策について理解し対応できるようにする。
<p>指導内容</p>	<p>各教科</p> <p>社会「地理的分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。 <p>社会「公民的分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的、多角的に考察する。 <p>理科「第2分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害について調べ、これらを火山活動や地震発生仕組みと関連付けて理解する。 ・気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解する。 ・地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わりについて認識する。 <p>保健体育「保健分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による傷害は、災害発生時だけではなく、二次災害によっても生じることや、災害への備え、安全な避難によって防止できることを理解する。 ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができる。また、心肺蘇生法などを行うことができるようにする。 <p>技術・家庭「技術分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。 <p>技術・家庭「家庭分野」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害発生時の危険を予測し、危険な箇所を見付け出し、家族の安全を考えた住空間の整え方について理解し、工夫できるようにする。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の連続性や有限性などを理解し、尊重しようとする心情を育てる。 ・地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする態度を育てる。
<p>特別活動</p>	<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常及び災害時の安全確保に向けた正しい情報の収集と理解ができるようになる。 ・学校内外における自己の生活を見直し、安全に配慮した的確な行動がとれるようになる。 ・社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルールを身に付け、働くことや社会に貢献することについて考えて行動しようとする態度を養う。 <p>生徒会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践する力を養う。 ・地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画しようとする態度を養う。 <p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活を振り返り、防災に関する課題と解決策について考え、他者と協力し

		<p>て、適切に判断し行動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災訓練を通して、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の仕方を身に付ける。
	総合的な学習の時間	<p>活動例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境について体験的・探究的な学習をする。 ・地域の災害の歴史を調査し防災対策について探究する。

エ 高等学校

<p>基本目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから災害に対する備えを行い、災害発生時には状況に応じた的確な判断により、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。 ・災害による危険を回避するために必要な情報を収集し、自他の安全状況を適切に評価するとともに、適切に意思決定したり、主体的に行動したりする力を養う。 ・災害発生時には、自らの安全を守るだけでなく、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神を養う。 ・安全で安心な社会づくりの意義や様々な自然災害の特徴、災害の歴史等を理解するとともに、自然災害から自他の生命を守るために必要な知識や技能を高める。 ・災害の発生メカニズムや歴史および地域の防災体制についての理解を深めることができるようにする。 ・琵琶湖西岸断層帯による地震、南海トラフ巨大地震等の大規模地震の発生メカニズムや防災対策について十分理解し対応できるようにする。
<p>指導内容</p>	<p>各教科</p> <p>「地理総合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 <p>「地理探究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察する。 ・地形図や地理情報システム、ハザードマップなどを用いて主題図の読図などの地理的技能を身につけさせ、防災意識を高めるよう工夫する。 <p>「科学と人間生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太光や熱の科学、物質の科学、生命の科学、宇宙や地球の科学と人間生活との関わりについて理解する。 <p>「地学基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山活動と地震の発生の仕組みについて理解させる。 ・日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活との関わりについて理解する。 ・自然災害の予測や防災について理解する。 <p>「地学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて理解させる。 <p>「保健」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることができる。 ・安全に関する還俗や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現することができるようにする。 <p>家庭「家庭基礎、家庭総合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者介護の基礎を学ぶことを通して、災害時要援護者等への支援の必要性について認識する。 ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。

	<p>工業（「建築計画」、「建築法規」、「衛生・防災設備」、の各科目で扱う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市景観および都市防災について理解する。 ・防災や避難及び建築設備などに関する規定について理解する。 ・防災設備に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。 ・衛生、防災に関わる設備について設計法や施行法と建築物や社会基盤との関係を踏まえて理解する。 <p>商業「ネットワーク管理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害、事故、外部からの侵入などへの物理的対策について理解する。 <p>情報（「ネットワークシステム・データベース」で扱う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に対するネットワークの安全対策に関する基本方針の役割や重要性について理解する。 ・自然災害や不慮の事故発生等の備えとしてのバックアップ、ログ管理などのリスク管理の重要性などについて理解する。 <p>福祉（「生活支援技術」で扱う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における介護の意義や目的について理解させ、災害の種類や被災者の身体状況および心理状態の把握、他の職種との連携について取り上げ、災害時の情報伝達や安全確保などについても理解する。
<p>特別活動</p>	<p>ホームルーム活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の意義を理解する。 ・生命の尊重と安全な生活態度や習慣を確立する。 <p>生徒会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て協力して運営すること。に自主的、実践的に取り組み、学校生活の充実と向上を図る活動を行う。 ・学校行事への協力を行う。 ・ボランティア活動などの社会参画を行う。 <p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した総合的な防災訓練を実施する。 ・ボランティア活動など勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験活動などの勤労観・職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験を通して社会奉仕の精神を培う活動を行う。
<p>総合的な探究の時間</p>	<p>〈活動例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境、災害の歴史と対策について調査・研究する。 ・地震活動や地震の発生メカニズムについて科学的に調査・研究する。 ・世界の災害や危機管理について調査・研究する。

オ 特別支援学校

<p>基本目標</p>	<p>・各学校においては、幼稚園、小学校、中学校および高等学校の指導内容に準ずるとともに、児童生徒の障害の状態および発達段階や特性等並びに地域や学校の実態を十分に考慮して、適切な目標を設定する。</p>
<p>指導内容</p>	<p>視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由または病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校</p> <p>・幼稚園、小学校、中学校および高等学校の指導内容に準ずるとともに、児童生徒一人ひとりの障害の状態や特性等を十分に考慮する。</p>
	<p>知的障害者である児童生徒に対して教育を行う特別支援学校</p> <p>・関連の深い教科における指導や、各教科・道徳科・特別活動・自立活動の全部又は一部について合わせて授業を行うなど、児童生徒一人ひとりの実態に即した指導を行う。</p> <p>・中学部・高等部においては、総合的な学習探究の時間で地域や学校の特色に応じた指導が考えられる。</p> <p>小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活 避難時に、教師の指示を適切に理解する。 警察署、消防署などを実際に訪問したり公共施設の仕事を理解する。 <p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会 消防署等の公共施設の働きを理解する。 ・理科 気象や地震についての興味・関心を広げる。 ・職業・家庭科 道具や機械の扱い方などがわかり、安全な作業をする。 地震や火災など緊急時に身を守ることや避難場所、連絡先について理解する。 <p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会 公共施設などの働きを理解し、適切に利用する。 ・理科 様々な自然がもたらす災害のシステムや影響について理解する。 ・職業 道具や機械を適切に選定し、安全な作業を行う。 ・家庭 地震、台風、洪水などの時の行動の仕方を身に付ける。